



Title	地下街が完成して
Author(s)	堺, 一二
Citation	大阪公衆衛生. 1964, 13, p. 24-24
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84628
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

——地下街が完成して——

阪急百貨店食品部食品部長

堺 一 二

11月29日に梅田地下街の誕生を見ました。聞き及びますところ、当日の人出100万人とかさしもの膨大な1万8千平方メートルの大地下街でも、まるで十日戎の参道よろしくの大雑踏で、一日を終始した様子は既に皆様方の御承知の事でございますよう当日私もそのお祭り気分の一人として、地下街を一巡して見ました。

阪急ビルのあの大階段を降りて南行、20米巾の通路を挟んでの衣料品雑貨街を見せて頂き、新阪急ビルえ、そして又北上し北のアミューズメント・センターである梅田映画劇場、コマ劇場地下に至る両側の食堂街を、そして反転し、曽根崎警察署、富国生命ビルとの間を左折する食品街をと見

聞するのに40分余りの時間がかかりました。ブロック毎に整然と区劃され、夫々が明るく清潔で、且つ多彩な各店舗が賑々しく御開店になり、大阪の玄関である北の周辺が更にアクティブな大繁華街として体質改善されました事を心よりお慶び申し上げます次第で御座います。

大地下街を見ますに、その半数以上が食堂、食品のお店である様にお見受け致しました。不躰な言葉で恐縮ですが私達の生活に欠せぬ衣・食・住問題の一つである「食」の魅力をここに現出された様で「食倒れ大阪」の看板を更に改めて認識した次第です。

こうして北大阪の一帯に各地の代表的な食品関係店が軒をならべ、施設に品質にそしてもっと大切な衛生の諸問題にとりくみ、互に研究もし、また良い意味での競争をして大阪の公衆衛生の向上に寄与しなければならないと、その業に携わる一人として自覚を新たにしました次第でございます。

じゅうせき